

[駒沢女子大学 研究紀要 第24号 p.113～130 2017]

日本と韓国における結婚・結婚式に関する相違 ～日・韓の女子大学生の意識調査より～

張 景 泰*

—Comparison of Marriage and Wedding Ceremony between Japan and South Korea based on a survey of female college students of Japan and South Korea—

Kyungtae JANG*

Abstract

Both Japan and South Korea have high numbers of delayed-married and unmarried people, and it has become a big issue in both societies. On the other hand, there is a high interest in international marriage, though attitudes to it in both countries are complex. The purpose of this research is to analyze the results of a questionnaire based survey and to provide an analytical material for delayed-married and unmarried people by clarifying the consciousness of female college students in both Japan and South Korea. Through this research, we see that there is a difference between Japan and South Korea regarding “who the main person is at a wedding” and the “flow of wedding ceremonies” based on cultural differences such as religion. In the survey results for female college students, we may also confirm other differences such as “preferred marriage style”, “amount of gift money”, “cohabiting after marriage”, and “preferred international marriage partner's nationality”. Students from both countries mention “excessive expenses” incurred in wedding ceremonies as one of the biggest obstacles to marriage. Based on the above research results, we may conclude that both countries should develop policies to promote a balance of marriage and “women's social advancement”.

キーワード：結婚・結婚式、日本、韓国、女子大学生の意識

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

近年、日本は婚姻件数が減少する問題に直面している。厚生労働省の「人口動態統計推移」によると、平成22年～平成26年までの過去5年で、婚姻件数は約10万件ほど減少している。

2012（平成24）年の婚姻数は年間約67万組で、最も多かった1972（昭和47）年の約110万組と比べると、約43万組少ない6割程度となっている。2016年には約62万1000組まで減っている。このように日本婚姻件数の減少の原因として挙げられるのは、少子・高齢化の人口構造とともに

*人文学部 国際文化学科

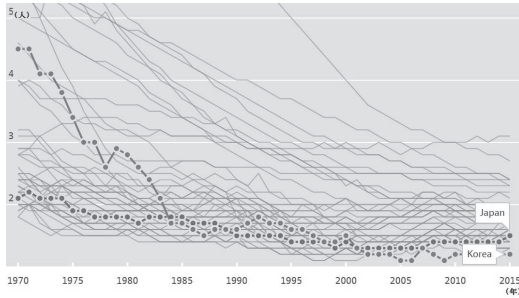


図1 OECD主要国の中で、日本・韓国の出生率
OECD data より著者再構成

に結婚に対する晩婚化、非婚化が進んでおり、政府の政策転換と国民意識の転換が問われる事態になっている。

一方、近隣諸国である韓国にも結婚に対する意識が変わっており、日本と似たような社会現象が起きている。実際、韓国統計庁のデータから確認すると、韓国の婚姻件数は2011年から年々減っており、2015年で30万件になり、2016年現在では28万件までになり、減少傾向である(2004年基準では64万件数)。日・韓の人口構成比の中で、婚姻状態を把握してみる。OECD

主要国の婚姻率(単位:件、2014年基準、1000人当たり)によると、日本が5.1組にあることにに対し、韓国は6.0組でやや高い水準であるが、2016年の出生率は日本(1.4人)韓国(1.17人)ともにOECD主要国の中でも低い水準が続いている(図1参照)。特に韓国では、日本と比べ、結婚は維持しているものの、様々な原因で出産は控えているのが現状である。

また、2015年の韓国統計庁の資料によると、韓国人の生涯未婚率が男性10.9%、女性5.0%で、日本の男性23.4%、女性14.1%よりは低いものの、2035年を境に逆転する予想で、2045年には韓国人の男性の36.9%、女性の26.2%が未婚のまま生涯を閉じると予想され、(日本より急激に増加されると予想、朝鮮日報記事)今後大きな社会問題として台頭している(図2-1、2-2参照)。関連データの数字の差はあるが、両国ともに婚姻率と出生率は社会の大きな課題になっている。

日・韓ともに婚姻件数は減っているが、婚姻の中、国際結婚が占めている割合は、無視できないぐらいの数字になっている。韓国の場合、

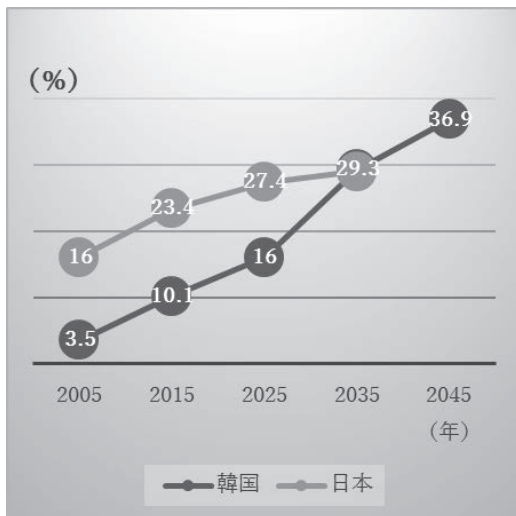


図2-1 日韓における男性生涯未婚率の推移と展望
2025年からのデータは推定
朝鮮日報の記事より著者再編集

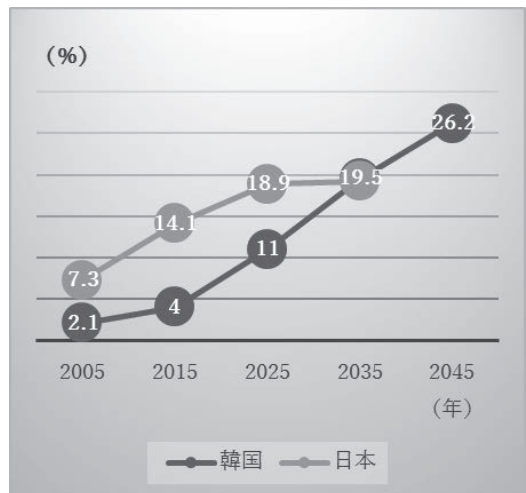


図2-2 日韓における女性生涯未婚率の推移と展望
2025年からのデータは推定
朝鮮日報の記事より著者再編集

韓国の婚姻数全体に占める国際結婚の割合は約11%（36,204件、2008年）で、10組に1組以上が韓国人&外国人カップルという国際化時代に突入している。2016年現在でも、国際結婚件数は20,591件で全体婚姻件数の7.3%を占めており、高い水準を維持している。日本の場合でも、厚生労働省による「人口動態統計特殊報告」によると（2015年）、平成2006年をピーク（4万4701組）に増加傾向であったが、その後は減少に転じている。しかし、2015年現在でも3割強（2万1488組）を維持している。近年、日・韓両国ともに国際結婚の相手として関係性を強めているのも事実である。

本研究は、両国ともに上記のような結婚に関する厳しい環境の中で、将来結婚する可能性がある日本と韓国の女子大学生に結婚をする前に結婚関係の意識調査を行うことで、「結婚についてどのような問題意識を持っているか」を調べ、今後さらに社会問題化する晩婚化、非婚化に分析材料として備えることを目的にする。さらに「現在、一般成人が考えている結婚に対する意識」と「若者世代である女子大学生の意識」を分析することで、意見の差があるか確認する目的もある。最後の目的は国際結婚相手として関係性を強めている両国の中、文化の相違から生じるトラブルを避け、相互理解の材料として本研究の内容を使ってもらうことに意義があると考えている。

(2) 研究の対象と方法

本研究は、日本と韓国の結婚式の相違、両国の女子大学生の結婚に対する意識の共通点・相違点を明らかにすることで、両国の結婚式の相違を理解するとともに、両国の女子大生が考えている「結婚に対する意識」を把握することに大きな意義があると考えた。そのため、まずは互いに異なる文化、宗教を持って形成された日

本と韓国の結婚式の相違点を基本研究として行い、その中で両国の代表的な挙式を選び、その相違について分析をする。日本の結婚式としては教会式を、韓国の結婚式としては一般結婚式を選定した。

次に日本と韓国の女子大学生各140名（計280名）に結婚に対する意識についてアンケート調査を実施し、その結果を分析して最後に考察をまとめる。日本の女子大学生は福岡市に所在しているS女子大学の大学生140名を対象として、韓国の女子大学生としてソウル所在のS女子大学の大学生の140名をアンケート対象にした。共に大学生1～2年生が調査対象であった。アンケートは2016年9月から11月まで3か月の間行った。

表1 アンケート調査概要

調査名	日・韓の女子大学生の結婚意識調査
調査対象	①福岡市所在のS女子大学 ②ソウル所在のS女子大学 共に大学生1～2年生が調査対象
実施期間	2016年9月から11月まで3か月の間
調査項目	①結婚について ②結婚式について ③結婚式の予算・人数について ④結婚式の問題点について ⑤結婚後の同居について ⑥国際結婚について

2. 日本と韓国の結婚式

「ブライダルビジネス入門」など結婚挙式に関する様々な資料によると、日本の結婚式は、教会式、仏前式、人前式、神前式などに分類することが一般的である。この挙式種類に関連する調べとして「リクルートマーケティング」の発表（2016年）によると、結婚式の実施形式は、教会で行うキリスト教式が2008年の60.7%から減少傾向にあるものの、2016年に57.8%と依然として半数以上を占め、継続的に最多である。

次に人気があるのは、形式にとらわれずカップルがゲストに対して誓う「人前式」と呼ばれるスタイルが、過去9年間は19～21.8%の間で推移し、増加傾向ある。それに続けて神前式、その他の調査結果となっている。

それに比べて韓国の結婚式は、日本のような宗教中心の分類は諸事情によって難しく、一般的には一般結婚式（新式結婚式）、伝統結婚式、宗教（教会、仏教など）結婚式などに分類することができる。特に専門式場で行われる一般結婚式が圧倒的に多く、伝統結婚式、仏前式は多く行われない。

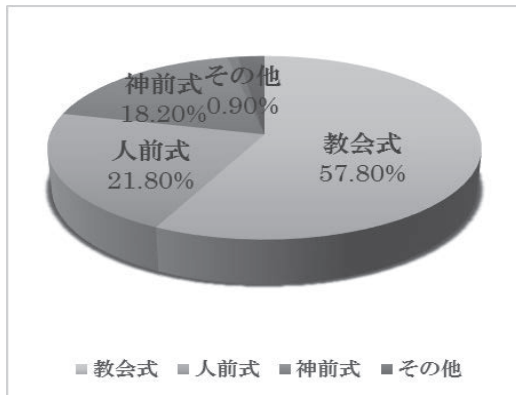


図3 日本における挙式スタイルの分布(2016年)
「ゼクシィ 結婚トレンド調査2016調べ」より

韓国の一般結婚式（新式結婚式）は1900年代に日本と西洋から入った教会式のものに当時の新しいスタイルを融合して作ったもので、現在では、その形をさらに発展させ、「専門式場で用意している一般式と伝統式」がセットになり、主なパターンで行われている。

挙式の流れに関しても両国の相違は多く、特に多く行われている日本の教会式、韓国の一般式を中心に挙式の流れを整理してみると以下の通りである。

まず、日本の教会式の流れから見ると、

①来賓の入場・着席

②新郎入場

③新婦入場

④新婦の引き渡し

⑤賛美歌斉唱

⑥聖書朗読・祈祷

⑦誓約

⑧指輪の交換

⑨結婚成立の宣言

⑩結婚証明書に署名

⑪結婚成立の報告・閉式の辞

⑫新郎新婦退場という流れである。式の後は、ほとんどの場合、会場を移動し、披露宴に移る。

それに比べ、韓国の一般式の流れは、

①両家の母親によるキャンドル点火

②新郎が入場

③開会宣言

④新婦、父親と入場

⑤新郎新婦一礼、誓いの言葉結婚宣言

⑥指輪の交換

⑦主礼（日本で言う媒酌人）の祝辞

⑧お祝いの歌

⑨両家、両親ご列席へのお辞儀

⑩新郎新婦退場という流れである。式が終わった後は、ペベクⁱ（韓国の伝統的な儀式、新郎新婦、親族のみ参加）と呼ばれる儀式に移り、来賓は、食事会場へ移動し、各自で食事をとる。

以上、両国の代表的な結婚式の流れより、以下のような相違があると分析できる。

①結婚式の主役の相違

日本では、結婚式の主役といたら、新郎新婦だが、韓国では新郎新婦に加え、両親も主役と同じような位置になる。これは、韓国の儒教の精神が根付いているからだといえる。儒教では人間は生まれてから死ぬまで親の意思に従い、親を敬い、親に対する礼儀を重んじるという教えがある。そのことから、結婚式という人生の新たなスタートで、両親へ感謝の気持ちを表現

できる場になっている。挙式の中で、両家の母親によるキャンドル点火、両親に対する最敬礼のお辞儀（クンジョル）などはその代表的な例でもある（写真1参照）。

②韓国的一般式は教会式がベースであるが、韓国特有のものが入っている。

日本の教会式の場合、新郎が始めに入場し、挙式が開始されるが、韓国の場合、新郎が入場する前に両家の母親によるキャンドル点火があり、開始する。その時、母親は韓国の伝統衣装である「韓服」を着ている。また主礼（ジュレ）による挙式の進行も挙げられる。主礼は挙式をあげる時、主宰する人で、牧師（神父）のような役割であるが、職業ではなく、新郎新婦に近い上司、恩師などに頼む場合が多い。年長者を敬う例だと言えよう。



写真1 韓国結婚式の両親へのお辞儀

その他にも韓国の結婚式では、日本の披露宴で行われていることが挙式の中で行われている（友人によるお祝いの歌、両家の両親、ご列席へのお辞儀等）。

挙式の流れ以外の日本と韓国の結婚式に関する相違についてその特徴をまとめると、まず参加する来賓について、韓国では、招待状を受け取っていない人も参加できるが、日本では招待状をもらった人のみになっている。来賓の服装

も韓国では、基本スーツではあるが、ラフなスタイルも参加可能にあることに対し、日本ではパーティードレスになっている。

結婚式にかかる時間では、韓国が平均1時間～2時間にあることに対し、日本は2時間以上～終日で、結婚式にかかる費用も韓国が約220万円（100円=1,000ウォンで計算）であることに対し、日本は平均354.8万円である。来賓からご祝儀は大きな差が生じ、韓国が平均3千円～5千円であることに対し、日本の結婚式では平均3万円～5万円である。韓国では、ご祝儀の平均額が低い分、来賓の数が多く、100人以上が参加することに対し、日本では親族、友人中心に70.2人であった。引き出物を出す文化は韓国ではなく、日本では出すのが一般的である。結婚資金の負担者に関しては、韓国では多くの場合、両親が中心になって負担する場合が多いことに対し、日本では本人同士か、あるいは両親と協議し、支払う場合が多い（表2参照）。

表2 日本と韓国の結婚式の相違

	日本	韓国
来賓	招待状をもらった人のみ	招待状を受け取っていない人も参加できる
服装	パーティードレス	スーツではあるが、ラフなスタイルも参加可能
結婚式にかかる時間	2時間以上～終日	1時間～2時間程度
費用	354.8万円	約220万円
ご祝儀	平均3万円～5万円	平均3千円～5千円
来賓数	70.2人	平均100人以上
引き出物	あり	なし
結婚資金の負担者	本人同士、両親	多くの場合、両親が中心になって負担

「ゼクシィ 結婚トレンド調査2017調べ」ⁱⁱ⁾、「韓国の結婚関連資料」を中心に著者再編集

3. アンケート調査による「日本と韓国の女子大学生の結婚関連意識」とその結果

日本と韓国の女子大学生が結婚に対して、どう意識しているか、アンケート調査を実施し、両国の女子大学生に相違が見られるのかを確認した。またその結果から結婚に関する問題の改善策を考察した。

アンケートの内容は、大きく分けて6項目で、15の質問を行った。その内容は以下のとおりである。

- ① 結婚について
- ② 結婚式について
- ③ 結婚式やそれに関わる予算・人数について
- ④ 結婚式の問題点について
- ⑤ 結婚後の同居について
- ⑥ 国際結婚について

■アンケートの結果と考察

①結婚について

質問：あなたは結婚したいですか？

【日本】 YES 119人 / NO 21人

【韓国】 YES 118人 / NO 22人

結婚についての考えは、結果として日・韓共に変わりはない。両国ともに結婚に否定的な考えを持っている女子大学生が2割弱いることがわかる。ところで、韓国の「統計庁」、日本の「社会保障・人口問題研究所」の2015年の資料で、韓国人女性の生涯未婚率が5.0%で、日本の女性が14.1%であることを配慮すると、韓国の女子大学生が諸事情で、現状より結婚に前向きではないことが証明されたと分析できる。

また、NOと答えた43人（日本21人、韓国22人）から、結婚したくない理由について尋ねた。その結果として両国には少々の相違が見られた。

質問：結婚したくない理由をお答えください。

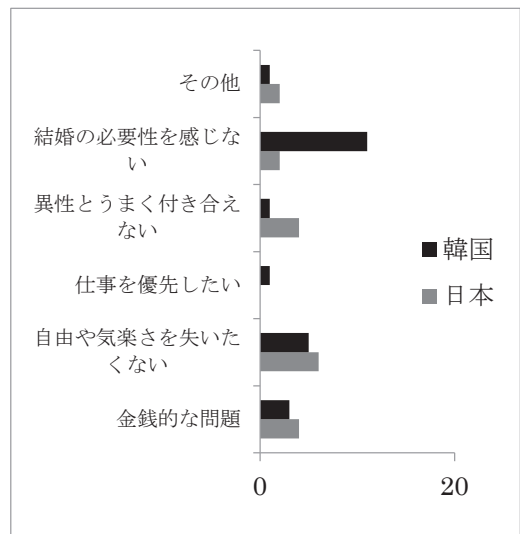


図4 日・韓の女子大学生の結婚したくない理由

韓国の女子大学生の意見では、「結婚の必要性を感じない」が結婚したくない理由として断然トップに多かったことに対し、日本の女子大学生は、「自由や気楽さを失いたくない」が多かったものの、「異性とうまく付き合えない」、「金銭的な問題」、「結婚の必要性を感じない」順になっており、その差もあまり見られなかった。日本の女子大学生は様々な理由で結婚を希望していないことが判明された。

次に結婚したいと思っている人（237名）に対しては「結婚する際の年齢について」について尋ねた。その結果は以下ようになった。

質問：あなたは何歳に結婚したいと思っていますか？

表3-1 日本の女子大学生の結婚希望年齢

20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳
3人	1人	7人	13人	16人	38人
26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	33歳
11人	11人	8人	2人	5人	1人

表3-2 韓国の女子大学生の結婚希望年齢

22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳
1人	3人	4人	13人	19人	15人	25人
29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	35歳	
11人	16人	16人	2人	4人	1人	なし

両国共に、20～30歳の間で結婚したい願望の人が多かった。特に多かったのが、25歳から28歳までだった。女子大学生1～2年生が主なアンケート対象者であったことから、「大学在学期間中に結婚をしたい」と思う人は少なく、「社会進出後の近い将来」に結婚を想定していることが伺える。また、30代での結婚を考えている人もいるということから「社会的な結婚の晩婚化」が女子大学生の考えにも影響したとも考えられる。

上記に関連して、日本の結婚年齢に関するデータを見ると、2015年のデータでは、妻が29.4歳で、10年前であった2005年には、妻が27.8歳であったため、10年で2歳弱も初婚年齢が上がっている。今回の調査では、25歳が一番多く、現実での晩婚化とは違う結果になった。

一方、韓国の現状では、初婚年齢が2006年時点で妻27.8歳であったが、2016年時点では30.1歳までに上がっており、10年間で2歳強が上がった結果となっている（韓国統計庁資料）。今回の調査では、28歳が一番多く、韓国も現状の事実と少々異なる結果となった。

調査結果を分析してみると、両国の学生ともに自分が希望している年齢と異なり、現実では諸事情によって結婚を後回しにする傾向であると認識できる。

②結婚式について

質問：あなたが望む結婚式のスタイルは？

この質問の結果は、まず日本の女子大学生の意見として一番多かったのは、現在日本で人気

一位である「教会式」を望む学生が多かった。その後、伝統式、仏教式、その他の順であった。

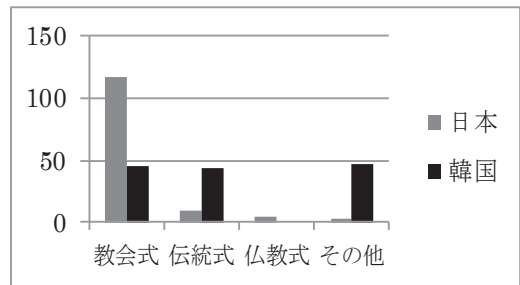


図5 日・韓の女子大学生の希望する結婚式

現在、日本で行われている挙式の人気順では、教会式（約58%）、人前式（約22%）、神前式（約18%）順である。現実と比較してみると、日本の女子大学生は教会式に対する強い憧れを持っていることがわかる。調査対象者140名中に110名以上が支持しており、チャペル（chapel）、純白のウェディング・ドレスとブーケに象徴される教会式に圧倒的な支持があった。

一方、韓国の女子大学生の意見では、仏教式以外の教会式、伝統式、その他の結婚式を望む学生がバランス良く支持された。その他の結婚式としては、独自のスタイルを考えており、現状の専門式場で行われる一般結婚式（新式結婚式）を望まない学生が多数いた。

参考資料として2013年に行われた「韓国のGallup」調査ⁱⁱⁱで、「最近来賓として参加した結婚式の場所は？」という質問に1,224名の対象者が専門式場79%、ホテル8%、教会・聖堂7%、その他順に答え、専門式場が結婚式場として多く利用されたことがわかる。現状と女子大学生の意見が不一致している。

その理由を分析してみると、現在数多く行われている韓国の「専門式場で用意している一般式と伝統式」について抵抗感を持っている学生が多く、「形と内容が決まっている」形式的な

挙式より、場所も内容も自分で考えて行いたいという希望から今回の調査結果に繋がったと考えられる。特にその他の結婚式として形式にとられない「自由なスタイル」を記述した女子大学生が多かった。

③結婚式やそれらに関わる・予算人数について

質問：結婚式の予算はどのくらいですか？

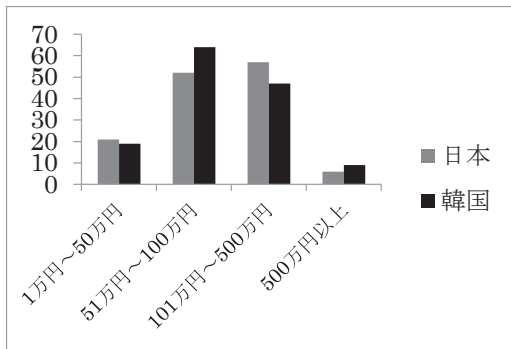


図6 日・韓の女子大学生の結婚式の予算規模

この質問に対して日本の女子大学生は、「101万～500万まで」、韓国の女子大学生は、「51万円～100万円まで」を考えている学生が多かった。

500万円以上と選ぶ学生は、両国併せて、20人もおらず、バブル期の「ハデ婚」に対して、「ジミ婚」を望む人が多かった。経済の変化に対応して結婚式の予算も変わっていることが分かる。

「結婚予算に関する質問」で、両国の相違が著しく出たのは、ご祝儀に関する意識である。

質問：結婚式のご祝儀はいくらぐらいが妥当だと思いますか？

日本の学生は、「3万円以上5万円以下」と考えている学生が一番多く、続いて「5千円以上3万円以下」と考えている学生も50人を超えたことに対し、韓国の学生のほとんどは、「5千

円以上3万円以下（100円=1,000ウォンで計算）」が妥当だと考えている女子大学生が多かった。5千円以下という意見も20人程度いた。

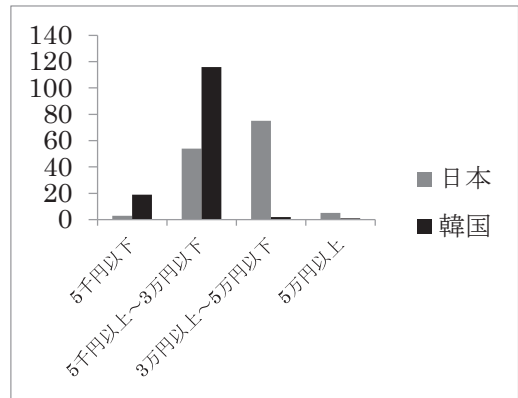


図7 日・韓の女子大学生のご祝儀の予算規模

現状、日本の結婚式でのご祝儀は平均3万円～5万円である。しかし、「ゼクシィ 結婚トレンド調査2017調べ」によると、招待客1人あたりの挙式、披露宴・披露パーティ費用は6.4万円で、増加傾向である。「実際かかる費用」と「日本の女子大学生が考えているご祝儀の金額」には、差があり、将来結婚式を準備するに当たって大きな障害になる可能性がある。

韓国の現状調査では（Gallup 調査、2013年）、ご祝儀として5万ウォンが70%で一番多く、10万ウォン以上が19%、3万ウォン以下が8%で、平均として6万ウォンであった。日本より断然低いご祝儀は女子大学生の認識にも定着しており、今回のアンケート結果で、8割以上が「5千円以上3万円以下（100円=1,000ウォンで計算）」と答えたと分析できる。

さらに同じ Gallup 調査として1994年の調査結果をみると、ご祝儀として3万ウォン以下が84%、5万ウォン14%、10万ウォン以上が2%であったことから、現状ご祝儀の金額が徐々に上がっていることがわかる。傾向として将来、日本の結婚式のように少人数招待で、高級志向

になる可能性も大いにある。

④結婚式の問題点について

結婚式の問題点について、4つの選択肢を設けた。以下の通りである。

- i. 過大な費用
- ii. 業者中心の市場形成
- iii. 形式的なしきたり
- iv. その他

その結果、両国とも i の「過大な費用」だと挙げる学生が8割以上であった（日本140人中109人、韓国140人中101名）。両国ともに女性の社会進出により、結婚というものが「必然」ではなく、「選択」という価値観が多くなっている現在、結婚式に関する過大な費用が今後も結婚を障害とする大きな要因の一つになると考えられる。韓国の女子大学生は、二位として「形式的なしきたり」を選ぶ学生が22名いたことに対し、日本の女子大学生は二位として「業者中心の市場形成」を15名を選び、問題点として挙げた。

⑤同居について

質問：結婚後の同居について相手家族との同居も想定していますか？

【日本】 YES 21 / NO 118

【韓国】 YES 50 / NO 87

結婚後の生活は、新郎新婦二人だけの生活を考えることが若者の一般的な見解であると認識したが、あえて「本人同士以外の家族との同居」を入れて質問した。その結果、韓国の女子大学生の場合、NOと答えた人が多かったものの、YESを選ぶ人も日本の女子大学生に比べると2倍以上多かった。これも、「結婚式の流れ」と同様、両親、年長者を大切にするという考え方からなるものであるといえる。また家族構成の現状として2世代構成が日本より維持されて

いることを証明していると分析できる。

次に YES と答えた人を対象に、同居の形式についての質問をした。その結果は以下の通りである。

質問：同居をしたいと答えた人が望む同居の形式について教えてください。

日本の女子大学生は、「自分の親との同居」が一位で8名、「相手の親と生活したい」が二位で6名、「両家の親と生活したい」が三位で4名を選び、大きな差は見られなかったが、韓国の学生は「両家の親と生活したい」と思う人が過半数で27名、それに続いて「自分の親との同居」が二位で14名、「相手の親と生活したい」が三位で3名という極端に少ない数字だった。

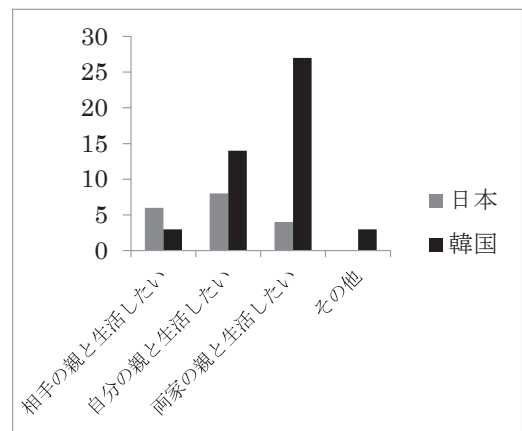


図8 日・韓の女子大学生の望む同居形式

また、同居にNOと答えた人に対して、同居をしたくないという理由について詳細な内容を聞くと、両国の答えには相違が見られた。日本の学生は、「気を遣う」、「新婚の内は二人で過ごしたい」、「大変そう」、「気まずい」、「いずれはするが、結婚後すぐではない」という記述であり、どちらかといえば、言葉を和らげた書き方をしていたことに対し、韓国の学生は、「干

「嫌われたくない」、「嫌い」、「不便」、「個人主義」などはっきりした意見を記述する人が多く見られた。このことから文化の相違、すなわち日本の「本音と建前」と韓国の「ストレートな言い方の風習」の違いが出ており、明白に相違を見せた。

⑥国際結婚について

質問：国際結婚に興味がありますか？

【日本】 YES 50人 / NO 86人

【韓国】 YES 45人 / NO 92人

日本の厚生労働省による「人口動態統計特殊報告」によると（2015年）、日本における国際結婚は平成2006年をピーク（4万4701組）に増加傾向であったが、その後は減少に転じている。しかし、2015年現在でも3割強（2万1488組）を維持している。韓国も2008年36,204件の国際結婚件数があり、10%を超えていたが、2016年現在では20,591件で、全体婚姻数の7.3%を占めている状況である。

今回のアンケート調査では、国際結婚に興味を持つ両国の女子大学生は三分の一以上で、「現状より国際結婚に関心が高い」ことが伺える。

国際結婚を望む学生に対して、結婚をしたい相手の文化圏を伺えると、両国ともに「英語文化圏のひと」に対して興味が深く（日本：50人中34人、韓国：45人中28人）、次に「漢字文化圏のひと」になっており（日本：50人中7人、韓国：45人中3人）、「アラビア文化圏のひと」を選ぶ人は両国で一人もいなかった。結婚したい相手の国籍を伺ったところ、日本の女子大学生は、韓国人が一番多く（7名）、次に英語文化圏の人が多かった（アメリカ6名、イギリス5名など）。続いてフランス3名、イタリア2名であった。韓国では、欧米の国を選ぶ人が多

かった（イタリア4名、アメリカ3名、ヨーロッパ8名など）。両国の学生が英語文化圏、或いは欧米の国を選んだ理由として、「外見」に関する理由が目立つ。「顔だちがいいから」、「ハーフの子が生まれるから」、「子供がかっこよくなるから」などアジア人とは違う、はっきりとした顔立ちに憧れを持っていることが多く、質問に対して挙げられた理由であると言える。日本の女子大学生が結婚相手として韓国人男性を好む理由は、「優しい」、「韓国文化に興味がある」、「韓国が好き」など若者の間に再ブームになっている韓流文化がある程度影響していると分析できる。

韓国の女子大学生が結婚相手として欧米人男性を好む理由は、「ロマンチック」、「英語が学びやすい」、「グローバル時代だから」など西洋文化への憧れや英語力を高めようとする教育熱心な国民性も伺える。

両国の国際結婚の相手に関する現状として日本では、日本人の妻と外国人の夫の関係で、2015年外国の夫妻における「夫の国籍別婚姻件数の構成割合」は、韓国・朝鮮人が一位で1,566組（25.4%）アメリカ人が二位で、1,127組（18.3%）、中国人が三位で、748組（12.1%）順になっている。また、韓国の統計庁の資料では、韓国人の妻と外国人の夫の関係で、2016年外国の夫妻における「夫の国籍別婚姻件数の構成割合」は、中国人が一位で、1,463組（25.4%）、アメリカ人が二位で、1,377組（23.9%）、ベトナム人が三位（9.8%）順になっている。参考として韓国内の韓国人妻における日本人夫の構成割合は、2008年には2,743組で当時一位であったが、徐々に減り続け、2016年には、381組しかいなく、前年度である2015年と比較すると、-52.8%減っている結果となった。

両国ともに現状として英語文化圏のアメリカ人が結婚相手として上位を維持している。その

反面、日本の女性には韓国の男性が上位を維持していることに対して韓国の女性は日本の男性を結婚相手としてあまり見ていないのが現状である。

このような一般傾向は、女子大学生の意見にも見られ、日本の女子大学生は「韓国人男性」を結婚相手として一位に挙げたことに対し、韓国の女子大学生の意見には結婚相手として「日本人男性」を挙げる人はいなかった。

4. 終わりに（まとめと考察）

本研究は、日本と韓国の結婚式の相違、両国の女子大学生の結婚に対する意識の共通点・相違点を明らかにすることで、両国の結婚式の相違を理解するとともに、両国の女子大学生が考えている「結婚に対する意識」を把握しようとした。

この研究を通して、日・韓の各省庁、各種機関により行われた一般成人の「結婚や結婚式に対する」データと、今回のアンケート調査で女子大学生が現時点で考えている「結婚や結婚式」には共通点・相違点があることがわかった。

まず、「日本と韓国の結婚に関する現状」と「女子大学生が考えている結婚に関する意識」の相違としては、現状の婚姻率より女子大学生の結婚に対する否定的な意見が多く、今後生涯未婚率が上がる可能性が高いと分析した。特に韓国の女子大学生の意見を考えると、現状の婚姻率との乖離が目立った。今後さらに韓国社会では「婚姻率」が下がり、「生涯未婚率」は上がると予想される。

また両国の女子大学生ともに自分が希望している年齢（25歳～28歳を中心に希望）と異なり、現実では晩婚化が進み（2015年基準、29歳～31歳）、今後女子大学生が結婚を考える時も諸事情によって結婚を後回しにする傾向が多くなると予想できる。国際結婚に関しては現状（2015

年基準、3%～8%）より興味を示している女子大学生が多い（アンケート対象者の三分の一以上）。しかし、調査では真剣に配慮したよりは「外見」や「異文化への興味」などで関心を持っている場合が多かった。

日本と韓国は、同じアジア圏の近隣諸国であるが、宗教、文化的なルーツなどにより結婚や結婚式に関しては当然相違を見せる。女子大学生を対象者にした今回のアンケート調査結果でも、「好む結婚スタイル」、「ご祝儀の金額」、「結婚後の同居の形態について」、「好む国際結婚の相手の国籍」などの相違を確認することが出来た。結婚式の流れの中からは、韓国人が日本人に比べ、両親、年長者を大切にしていることが分かる。その反面アンケート調査からは、韓国女子大学生の少数意見として両親より自分の生活スタイルを大事にし、強く自分の意見を言う傾向もあった。

一方、日・韓の女子大学生には「結婚・結婚式に関する共通する意見」も見られ、結婚式に関する「過大な費用」が結婚を障害とする大きな要因の一つとして挙げられた。さらに「結婚に対する関心度」や「国際結婚に対する関心度」も同じ傾向を見せており、日・韓ともに「大学在学期間中に考えている結婚意識」が「社会進出」後に維持出来ていないことを、「両国における結婚データの現状」から伺える。

両国共に現在、女性の社会進出が一般化され、「女性の結婚」と「社会進出」を両立させることが、両国の社会継続性に必修条件となりつつある。その条件をクリアするためには「女性の継続性ある社会的地位の確立」^{iv}が求められる。なぜなら、「育児を含めた結婚生活」には継続的に費用が発生するためである。両国ともに「男性の正社員率」より「女性の正社員率」が著しく低い現状はいち早く是正しなければいけない。その他にも働く女性のために、両国共に結婚後

の制度（育児休暇など）の整備や育児休暇後の仕事環境をしっかりと整えるということが求められ、この問題を解決する大きな課題だと考えられる。■

【参考文献】

- 李 芝賢（2006）：「韓日儀式行事に対する研究」中央大学教育大学院修士論文，pp.1-61.
- 岡田 由紀子（2015）：「ブライダルビジネスにおけるインターネット活用」武庫川女子大学情報教育研究センター紀要第24号，pp.18-21.
- クック・ファシック（2010）：『冠婚葬祭と生活礼節』ウンジンメディア，341p.
- ジェイティービー能力開発 編（2008）：『ブライダルビジネス入門』株式会社 JTB 総合研究所，226p.
- 田澤 昌・枝 境新一（2004）：「挙式・披露宴におけるブライダルビジネスの現状と戦略」東京家政学院大学紀要第44号，pp.91-110.

【参考サイト】

- OECD data <https://data.oecd.org/>
- ウエディングパーク <https://www.weddingpark.net/>
- 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
- ブライダル総研 <http://bridal-souken.net/>
- 韓国統計庁 <http://www.index.go.kr/>
- e-国指標 <http://www.index.go.kr/main.do>
- 韓国 Gallup <http://www.gallup.co.kr/>
- 朝鮮日報 http://news.chosun.com/site/data/html_dir/2017/10/20/2017102000165.htm

【注】

ⁱ 幣帛（ペバク）とは韓国独自の風習で、親族のみが集まり、新しく家族になる新郎新婦の二人が親族に挨拶をする婚礼儀式。結婚式後に主にお互いのご両親に挨拶をするため、式場の中に設けられた部屋に移動をし、韓服に着替えて行われる。ここで初顔合わせということではないが、改めて新しい家族としての挨拶と両親からのお祝いの言葉を受ける。

ⁱⁱ 2016年4月～2017年3月に結婚（挙式、披露宴・披露パーティ）をした、もしくは結婚予定があった『ゼクシィ』読者を対象に、結婚式の内容や使った金額、検討手段や選んだ理由など、結婚式の実態を把握できる調査

ⁱⁱⁱ 韓国 Gallup の2013年調査で、全国満19歳以上の成人を対象にし、男女1,224名を電話インタビューした。標本誤差は±2.8%で、95%の信頼水準であった。

^{iv} 厚生労働省の平成28年版（2016年版）の「国民生活基礎調査の概況」によると、「役員以外の雇用者における正規・非正規社員比率」に関して「男性22%・女性58%は非正規社員」の数字を出しており、女性の社会的地位が「継続かつ安定」ではないことを示している。この状況は韓国も同じく、全体の正規社員の1334万1000名中、男性が61.2%（817万1000名）、女性が38.8%（517万名）で、女性が「非継続、不安定」な状態で勤務していることがわかる。

Q15. 国際結婚後の生活場所、同居についてどのようにかんがえていますか？

<生活場所について>

1. 母国 2. 相手の母国 3. 第3国 4. その他()

<同居について>

1. 二人で生活したい 2. 相手の親と生活したい 3. 自分の親と生活したい
4. その他 ()

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

결혼에 관한 의식조사

저는 일본과 한국의 「결혼, 결혼식」에 대하여, 비교연구를 하고 있습니다. 연구 테마중의 하나인 「일본과 한국의 여자대학생의 의식조사」를 위해 본 양케이트를 준비하였습니다. 바쁘시겠지만 양케이트의 협력 부탁드립니다.

Q1. 당신의 연령을 알려주십시오.

↳ (만) 세

Q2. 당신은 결혼을 하신 상태이십니까? (YES . NO)

YES 로 답하신 분은 자신의 경험에 비추어서 Q3질문으로 가주시기 바랍니다.

NO 로 답하신 분도 Q3로 가주시기 바랍니다.

Q3. 당신은 결혼을 하고 싶으신가요? (YES . NO)

↳ YES 로 답하신 분은 몇살정도에 결혼을 하고 싶다고 생각하십니까?

(만) 세

↳ NO 로 답하신 분은 왜 결혼을 하고 싶지 않으시, 그 이유를 말씀해 주시기 바랍니다.

2. 금전적 문제 2. 자유와 편한함을 잃기 싫기에 3. 일을 우선시 하고 싶다

4. 이성과 잘 사귀지 못한다 5. 결혼의 필요성을 느끼지 못함

6. 기타 ()

NO 로 답하신 분은 자신이 결혼한다고 상정하고 다음 질문들에 답하여 주십시오.

Q4. 당신은 결혼식을 올리고 싶습니까? (YES . NO)

↳ YES 로 답하신 분은 Q5로 가 주십시오.

↳ NO 로 답하신 분은 왜 결혼식을 올리고 싶지 않은지 그 이유를 들려주십시오.

2. 금전적 문제 2. 흥미가 없다 3. 식준비가 힘들 4. 주목받는 것이 부담스럽다

5. 기타 ()

NO 로 답하신 분은 자신이 결혼한다고 상정하고 다음 질문들에 답하여 주십시오.

Q5. 어떤식의 결혼식을 올리고 싶으신가요?

1. 가족만이 참석하는 결혼식 2. 직장동료과 친구들이 참석한 성대한 결혼식

3. 해외에서의 결혼식 4. 둘만의 결혼식 5. 식은 올리지 않고 사진촬영만

6. 기타 ()

Q6. 어떤 형태의 식당에서 결혼식을 올리고 싶은가요?

1. 전문 결혼식장 2. 호텔 3. 교회 4. 기타 ()

